

統一課題局別全体計画

中部森林管理局

課題	超緩効性肥料を用いたエリートツリー等コンテナ苗の活用					開発期間	R07～R12	
開発箇所	飛騨森林管理署 マツ谷国有林20と1林小班 岐阜森林管理署 七宗国有林1246い2林小班	面積・プロット数	0.0225ha×18プロット (2国有林×9プロット)	担当部署	森林技術・支援センター 飛騨森林管理署 岐阜森林管理署 森林整備課 技術普及課	共同研究機関	岐阜県森林研究所	
課題の分類	統一課題	技術開発基本目標	1	その他関係施策等	森林・林業基本計画、国有林野の管理経営に関する基本計画			
現状と問題点	エリートツリー等コンテナ苗（特定苗木を含む）については、下刈り回数の縮減による造林の省力化・低コスト化等が期待され、今後、供給体制が整備されてくるものと考えられる。一方で、その能力を十分に発揮するためには土壌や微地形等が影響するとの調査結果もあり、特にエリートツリー等が良好に成長するには、成長初期に十分な養分が必要と想定される。							
開発目的 (数値目標)	植栽後も効果を発揮する超緩効性肥料を用いたエリートツリー等コンテナ苗の成長促進効果、植栽適地等の検証を行うとともに、5年後の実用化を念頭に再造林の低コスト化の可能性について検証する。							
開発方法	○苗木の樹種はスギ、ヒノキ、トドマツのいずれかで、①エリートツリー等苗木（超緩効性肥料あり）、②エリートツリー等苗木（超緩効性肥料なし）、③普通苗木の3種類を準備（すべてコンテナ苗） ○苗木は、地域で流通している苗木の中で可能な限り優良な形状比（徒長苗を避ける）、根元径（細いものを避ける）とし、苗木出荷時のサイズは地域で流通し、通常の造林事業で使用されているものと同等のもの ○超緩効性肥料（700日タイプ）を使用し、コンテナ苗への移植時に行うことを基本とする ○調査プロットは斜面の上・中・下に設定（※斜面の状況により調整することもある）							
年度別計画		(令和6年度)前年度	令和7年度年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度
	マツ谷国有林	・試験地設定個所の調査 ・植栽用苗の開発 ・基礎データの収集 ・試験地設定 ・現地検討会（9月）	・試験地地拵え ・土壌調査 ・試験地防護柵設置 ・試験地植栽、現地検討会 ・植栽時の調査 ・成長量調査（10～11月） ・C区分判定	・成長量調査（10～11月） ・C区分判定	・成長量調査（10～11月） ・C区分判定	・成長量調査（10～11月） ・C区分判定	・成長量調査（10～11月） ・C区分判定 ・取りまとめ	
		(令和6年度)前年度	令和7年度年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度
	七宗国有林	・試験地設定個所の調査 ・試験地設定 ・植栽用苗の開発 ・基礎データの収集	・土壌調査 ・試験地地拵え ・試験地防護柵設置 ・試験地植栽（9月） ・植栽時の調査（9月） ・成長量調査（10～11月） ・C区分判定 ・現地検討会	・成長量調査（10～11月） ・C区分判定	・成長量調査（10～11月） ・C区分判定	・成長量調査（10～11月） ・C区分判定	・成長量調査（10～11月） ・C区分判定 ・取りまとめ	・成長量調査（10～11月） ・C区分判定 ・取りまとめ
中間報告				○				
技術開発委員会 における意見								
原課・原班の意見	・下刈作業が不要となるまで成長量調査を継続予定のため、試験期間の最終年度は流動的。 ・試験地の土壌調査を実施する。							
その他	・中部森林管理局技術開発委員会より、試験地及び周辺の「地位」と土壌型について明らかにする必要との意見があり地位分布図を作成した。また、土壌調査を実施し土壌型の確認を行う。							